

# 『新型コロナウイルス 対応から考察する 「保育実習」に関する調査』 報告書

公益社団法人 全国私立保育園連盟 調査部

〈はじめに〉

公益社団法人全国私立保育園連盟調査部（以下、調査部）では、会員園のご協力をいただき、年度当初の4月（令和2年4月22日時点）、続けて6月（令和2年6月22日時点）と連続した新型コロナウイルス感染症に関する調査を行い、保育施設の役割を方向づけるために、また、将来の同様な危機に備えるために、「客観的データ」の集積に取り組んでまいりました\*。

2つの調査結果からは、従来から行ってきたことが通用しない事態に直面されながらも、そうした機会を、「再考の好機」として取り組まれている実例に接し、保育現場の力強さを実感させていただきました。

そして今回は、そのような“再考の好機”と受けとめられている事柄の中から、『保育実習』にスポットをあて、『新型コロナウイルス対応から考察する「保育実習」に関する調査』を行いました。

外部との接触を極力避けたい施設としては中止の判断をすべきか、養成校の学生さんの学びの場を優先、継続すべきか…。最終的な可否の判断にかかわらず、『保育実習』受け入れの結論に至るまでの期間を含めた対応、様々な工夫から各施設が抱えてきた<sup>しんじゆん</sup>逡巡が見えてきます。

今現在も、保育現場は感染拡大防止に向けた対応について、緊張感が途切れることのない状況が続いておりますが、この調査結果が従来の『保育実習』の点検、保育界全体で多様な人材を育む『新しい保育実習』への提案につながることを望んでいます。

本調査にご協力いただいたすべての皆様に、感謝申し上げます。

\*『新型コロナウイルス感染症に関する調査』報告書（2020年5月）

『新型コロナウイルス感染症に関する調査2—第1波感染期間を振り返る』報告書（2020年7月）

は、右記 QR コード、または下記の全私保連 HP よりダウンロードいただけます。

<http://www.zenshihoren.or.jp/about/diagram/tyousa.html>



〈調査の概要〉

調査内容：本調査報告書に添付した「調査票」に基づくインターネット調査

調査対象：保育施設（1施設1回答で依頼）

調査期間：令和2年10月1日～10月20日

回答数：1,763回答

# 全国私立保育園連盟 調査部

## 『新型コロナウイルス対応から考察する「保育実習」に関する調査』 単純集計

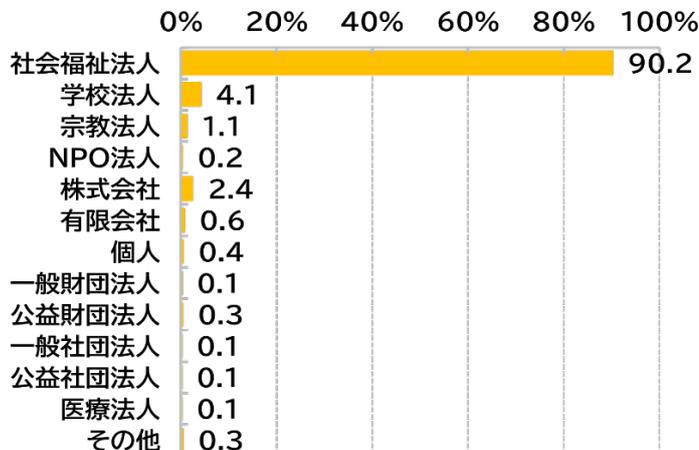
Q1

ご回答頂いている方の施設がある都道府県をお答えください。(n=1763)

都道府県	回答数	都道府県	回答数	都道府県	回答数
北海道	55	石川県	3	岡山県	18
青森県	6	福井県	4	広島県	71
岩手県	26	山梨県	0	山口県	5
宮城県	0	長野県	2	徳島県	3
秋田県	52	岐阜県	50	香川県	2
山形県	40	静岡県	152	愛媛県	1
福島県	0	愛知県	100	高知県	14
茨城県	15	三重県	6	福岡県	203
栃木県	10	滋賀県	15	佐賀県	0
群馬県	42	京都府	93	長崎県	7
埼玉県	14	大阪府	118	熊本県	49
千葉県	60	兵庫県	173	大分県	15
東京都	111	奈良県	2	宮崎県	39
神奈川県	74	和歌山県	6	鹿児島県	26
新潟県	0	鳥取県	11	沖縄県	27
富山県	2	島根県	41		

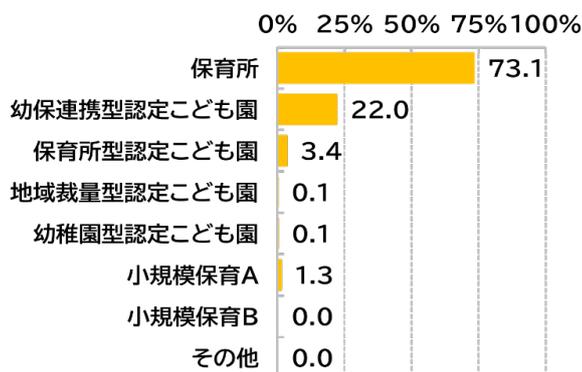
Q2

ご回答頂いている方の施設の法人格をお答えください。(n=1763)



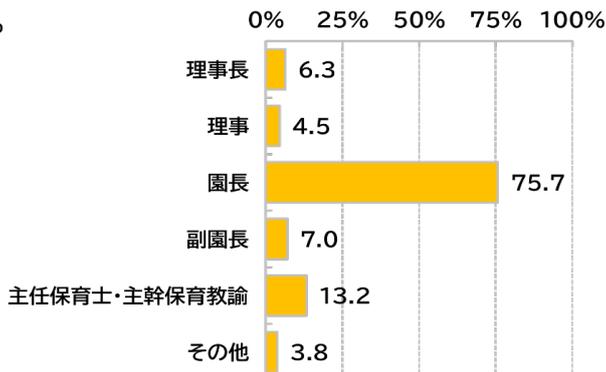
Q3

ご回答頂いている方の施設の施設種別をお答えください。(n=1763)



Q4

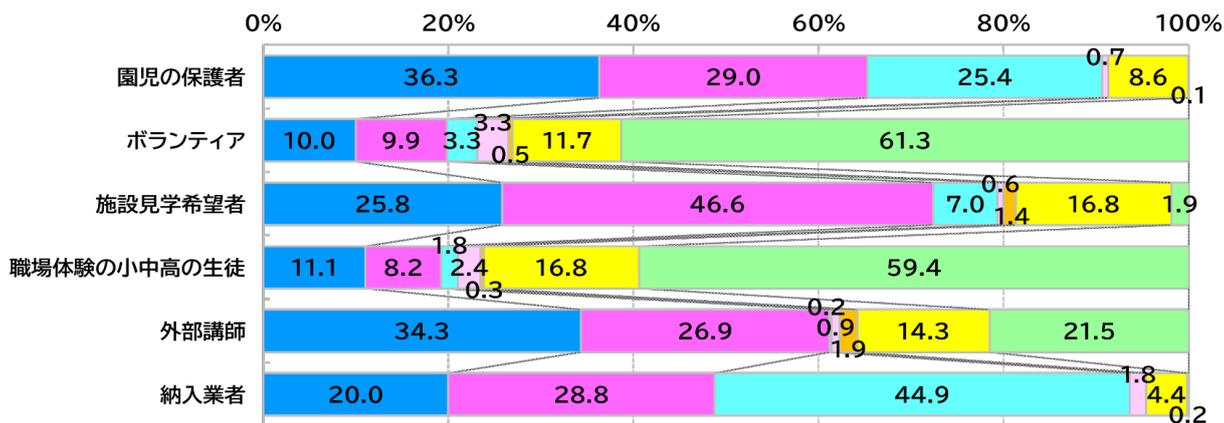
ご回答頂いている方の役職をお答えください。(n=1763)



Q5

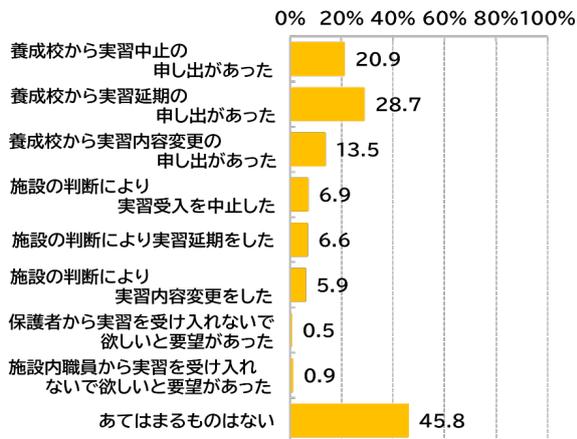
今現在の新型コロナウイルス対応として外部の方（職員、園児以外の人物）の施設への立ち入りについて、方針を教えてください。(最も近い状況を1つ選択)

- ① 制限なし(コロナ以前と同様)
- ② エリアを限定して立ち入り可能
- ③ 玄関先での対応
- ④ インターホンでのみ対応(立入不可)
- ⑤ web上での対応
- ⑥ ①～⑤以外での制限実施
- ⑦ 設問対象となる人物はいない



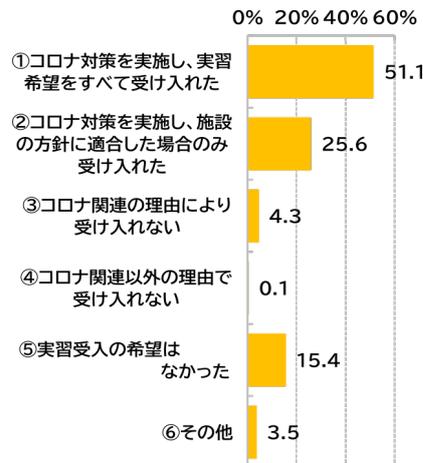
### Q6

緊急事態宣言解除後の  
実習受け入れに関する  
新型コロナウイルス対応で  
該当する項目をお選びください。  
[複数回答可] (n=1763)



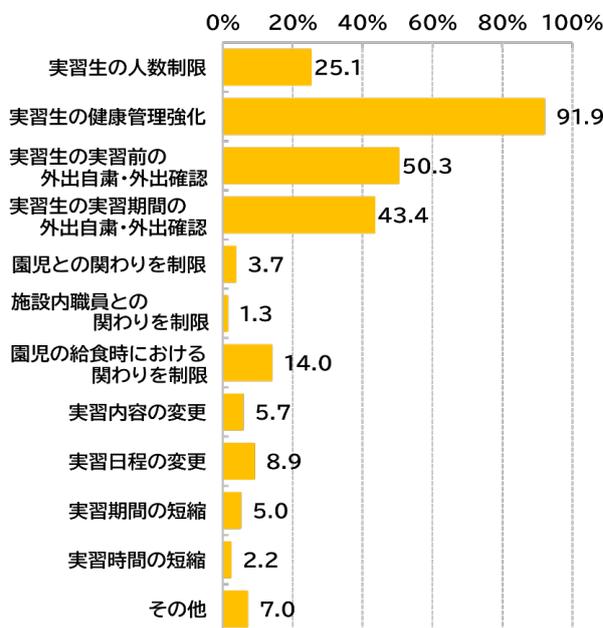
### Q7

今年度養成校からの実習を受け入れましたか (予定も含む)。  
受け入れについての考えに最も近い項目を1つお選びください。(n=1763)



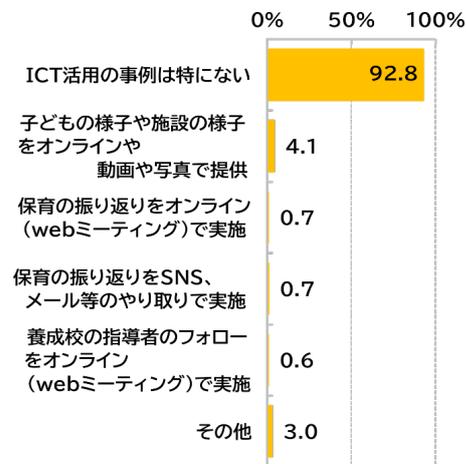
### Q8

Q7で「①・②」を選択された方にお尋ねします。  
新型コロナウイルス対応として、  
実施した項目をお選びください。  
[複数回答可] (n=1353)



### Q9

Q7で「①・②」を選択された方にお尋ねします。  
新型コロナウイルス対応として  
実習におけるICTの活用を行っている  
事例があればお選びください。  
[複数回答可] (n=1353)



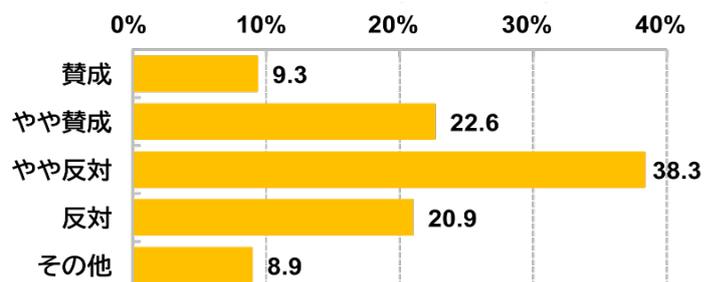
#### 〈調査項目・回答項目の省略について〉

今後の考察における図表等において、紙面の都合上、各設問の調査項目や回答項目を省略する場合があります。

それらにつきましては、2～5頁の単純集計または19頁の調査項目をご参照ください。

### Q10

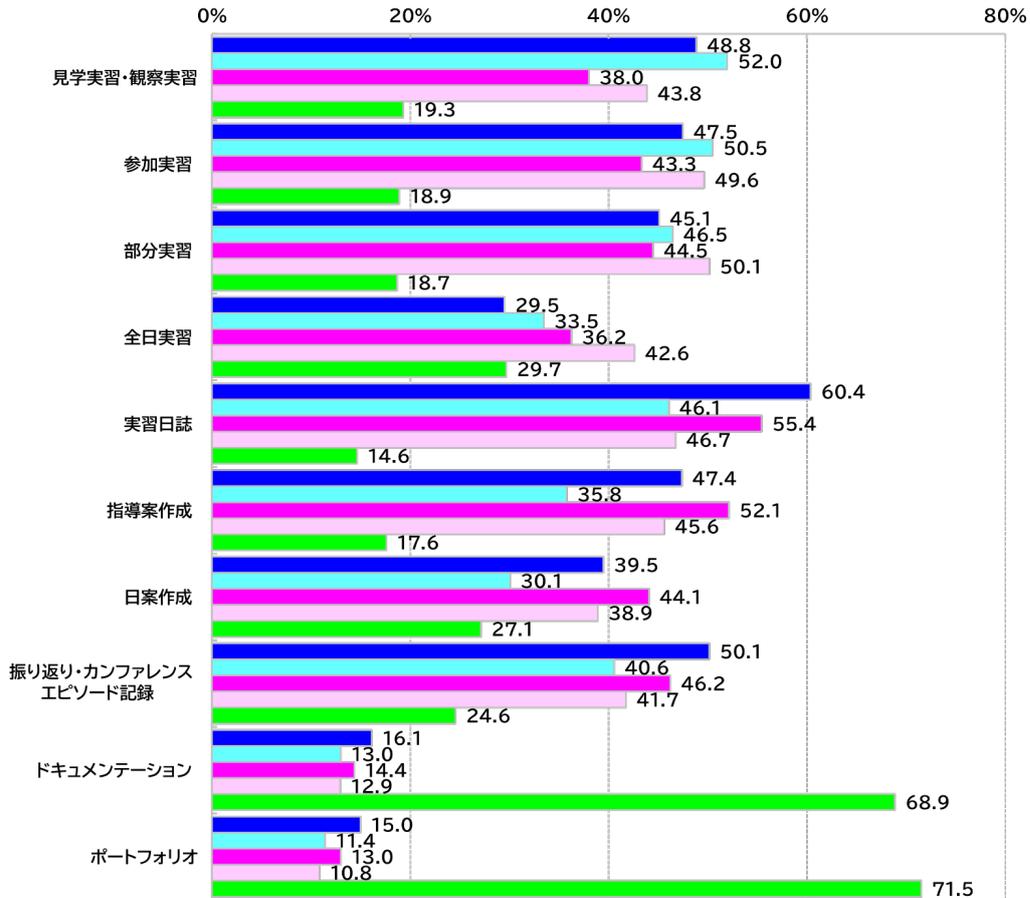
新型コロナウイルス対応により、  
保育実習が中止となり代替授業へ  
変更されることについて、  
どのように感じますか。(n=1763)



# Q11

「保育実習Ⅰ」と「保育実習Ⅱ」において実施している項目をお選びください。  
[複数回答可]

■① コロナ以前の「保育実習Ⅰ」 ■② コロナ対応の「保育実習Ⅰ」 ■③ コロナ以前の「保育実習Ⅱ」 ■④ コロナ対応の「保育実習Ⅱ」 ■無回答



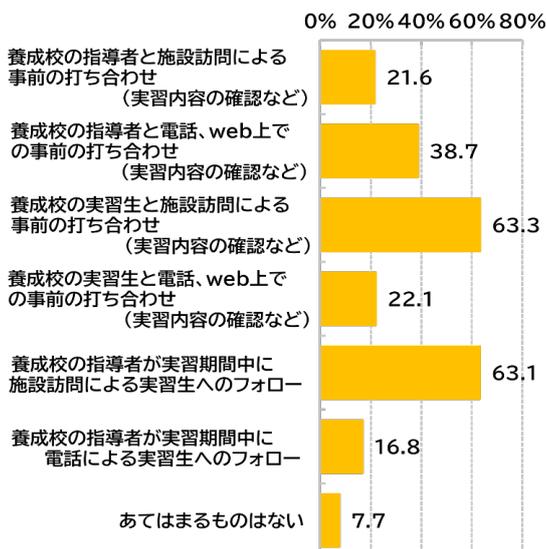
Q12 「保育実習Ⅰ」において特に配慮や工夫していることがあればご記入ください。

Q13 「保育実習Ⅱ」において特に配慮や工夫していることがあればご記入ください。

については「自由記述」回答のため、考察⑤(12頁)をご参照ください。

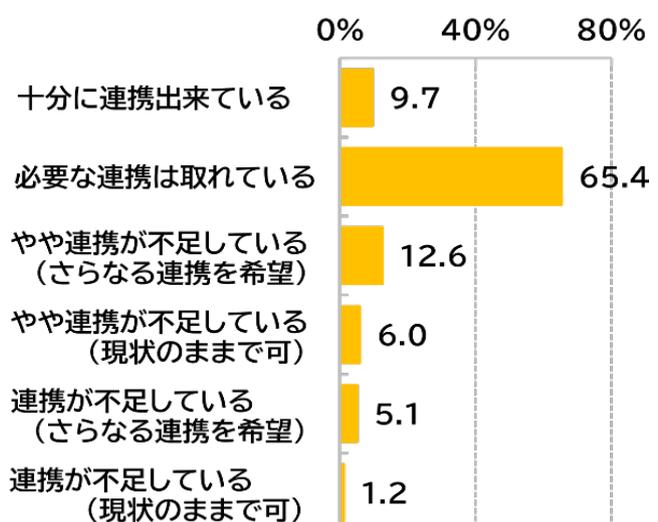
# Q14

実習の受け入れに際し、  
養成校との連携状況について  
実施されている項目を  
お選びください。[複数回答可]  
(n=1763)



# Q15

Q14 を踏まえ、実習受け入れに関する  
養成校との連携について感じている  
項目を1つお選びください。  
(n=1763)



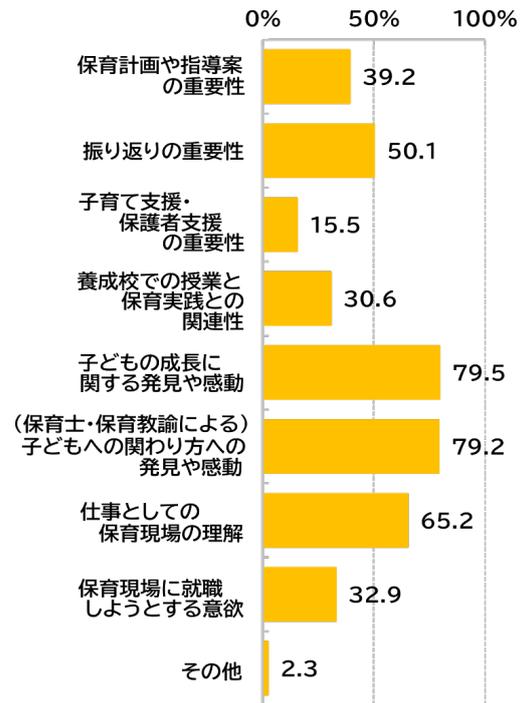
Q16

貴施設において、実習の受け入れや指導で重視している項目をお選びください。  
[複数回答可] (n=1763)



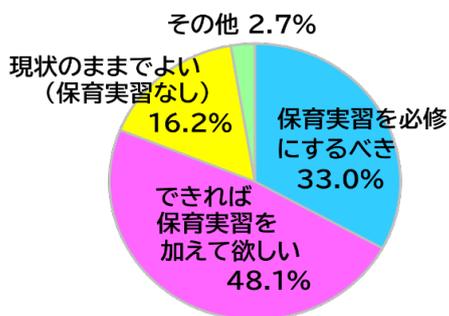
Q17

実習生が実習を通じて学んでいる(感じている)と思うことを下記の項目からお選びください。  
[複数回答可] (n=1763)



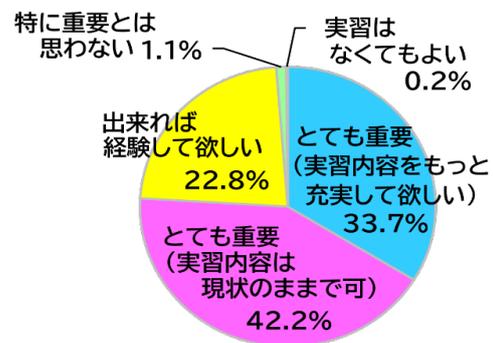
Q18

保育士の国家試験で保育実習が含まれないことについて、どのように思いますか。  
(n=1763)



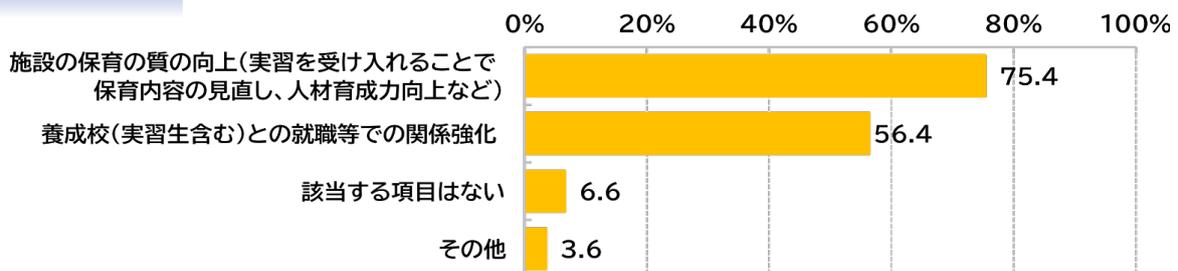
Q19

保育士資格における保育実習は保育現場で働く上でどのくらい重要とお考えですか。(n=1763)



Q20

実習生の養成以外で保育実習が果たしている役割があれば該当する項目をお選びください。  
[複数回答可] (n=1763)



●Q21 実習受け入れについて課題や要望などありましたらご記入ください。

については「自由記述」回答のため、考察⑨(16頁)をご参照ください。

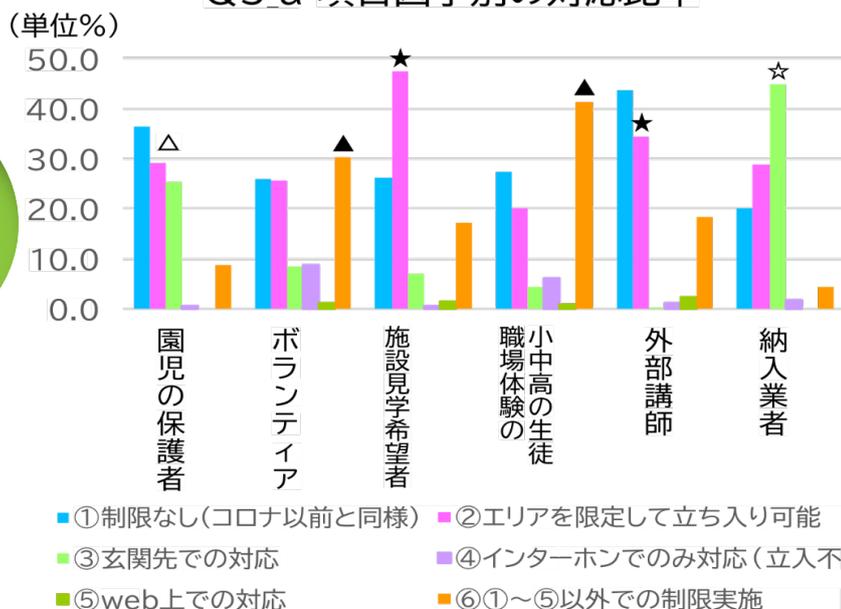
## 考察① 施設訪問者への対応状況

Q5の単純集計では、ボランティア、職場体験などに「該当なし」を選択する回答が多かった。そのため、ここではQ5の単純集計から「⑦設問対象となる人物はいない」を除外し、純粋な因子ごとの対応を示した（Q5\_a）。

Q5_a (単位%)	園児の保護者	ボランティア	施設見学希望者	職場体験の 小中高の生徒	外部講師	納入業者
① 制限なし(コロナ以前と同様)	36.3	25.8	26.3	27.2	43.7	20.0
② エリアを限定して立ち入り可能	29.0	25.5	47.5	20.1	34.2	28.9
③ 玄関先での対応	25.4	8.5	7.1	4.5	0.3	44.9
④ インターホンでのみ対応(立入不可)	0.7	8.7	0.6	6.0	1.1	1.8
⑤ web上での対応	0.0	1.2	1.4	0.8	2.5	0.0
⑥ ①～⑤以外での制限実施	8.6	30.4	17.1	41.3	18.2	4.4
①～⑥合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

\* 構成比は小数点以下の端数処理のため必ずしも100とはならない

Q5\_a 項目因子別の対応比率



項目因子による差はあるが、6～8割の園でコロナ以前とは同様ではない感染予防のための行動様式がとられるようになってきている。

毎日の送迎がある園児の保護者については4割弱が従来通りも、エリア限定と玄関先を合わせると半数を超えており、接触機会を減らす対応を行っている（△）。

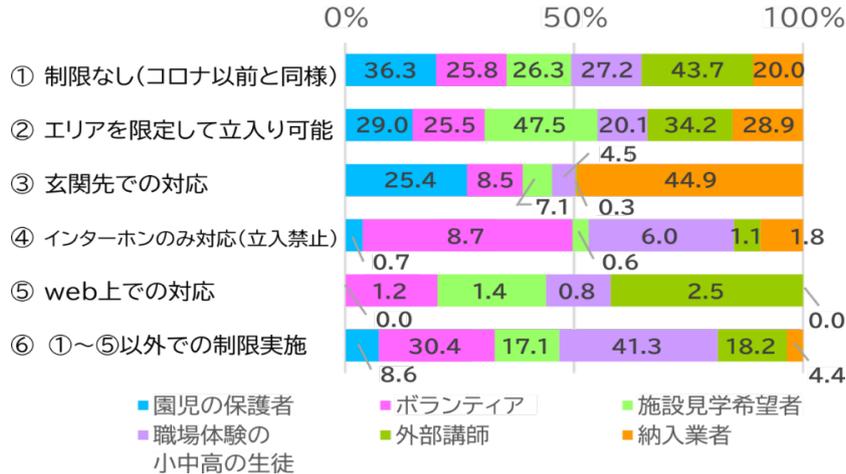
施設見学希望者・外部講師についてはエリアを限定しての対応が進んでいる（★）。

「①～⑤以外での行動制限実施」は、職場体験の学生やボランティアにおいて高い。他設問の自由記述から類推すると、私生活における行動制限や、体調管理の報告、基本的な感染予防の徹底といった対策であると考えられる（▲）。

納品については、玄関先での対応への変化が進んでいるようである（☆）。

また、項目因子ごとのそれぞれの対応の割合を横断的に100%積上げて再計算し、制限項目ごとに示したものが図Q5\_b(7頁)である。項目因子ごとの特徴的な傾向が見てとれる。特に「⑤web上での対応」については、園児の保護者・納入業者については事例が全くない一方で、外部講師・施設見学者の比率は高い傾向が見え、動画配信などの親和性が比較的高いことがうかがえる。現時点では回答者の2%未満にとどまったが、近年、身近な機材やサービスを用い、費用を抑えて高品質なwebでの情報発信や意思疎通が可能な環境が整ってきており、社会理解が進めば広く普及すると思われる。

## Q5\_b 対応別の構成比率の比較



\*注 横棒グラフ内の数値はQ5\_aの%数値であり、Q5\_bにおける比率ではない。

### 【コラム1 外部の方との関わりで育まれるもの】

保育園や認定こども園は園児と職員だけでなく、他にも様々な人が出入りしています。保護者はもちろん、ボランティアや近所の方、職場体験の学生・生徒、外部講師、納入業者、そして未来の保育士等となる養成校の実習生です。

今回の新型コロナウイルス感染症の出現により、感染防止のため「密」を避ける必要が出てきました。今まで「開かれた園」「地域に根差した園」を目指し、様々な人との交流が重視されていましたが、突如として人との関わりをどうするべきかという難題が持ち上がったこととなります。

お散歩に行くことも<sup>はほか</sup>憚られ、例年なら年度当初から歩道の歩き方を身につけながら近所の方と挨拶を交わし、春の自然を満喫していた保育活動が園内に限られていました。園庭の側で見かける近所の方や業者さんともマスクを着用したままだと声が通らず、自発的な挨拶が減ってしまいました。

保幼小連携として行っていた交流活動も縮小・中止が相次ぎました。保育園、幼稚園との交流は、子ども同士の密を避けづらい活動が多く、互いの園が感染予防をどこまで取れば充分かということに慎重になり、なかなか再開しづらい状況にあります。本来であれば同年代の子どもと遊ぶ体験は人間関係を広げ、自己肯定感や自制心といった非認知能力を養う機会となるのですが、責任とリスクを考えると自園だけで決定するのが難しいのが現状です。

小学校は運動会を延期し、密を避けるために外部参加者の人数制限が取れましたが、屋外活動なので見学する機会を得ることができました。卒園児のお兄さん、お姉さんを懐かしく見つけ、小学校で活躍する姿に憧れの視線を送っていました。特に年長児にとっては、小学生になるという見通しを持って生活に意欲が感じられるようになってきました。

高齢者施設へは、代表者が玄関まで訪問という形になりました。核家族の多い現在ですが、こういう時代だからこそ祖父母と会う機会を持たれた家庭も多く、高齢者への思いやりの気持ちを身近に感じることができているようでした。

外部講師の出入りを中止したため、異文化体験として行っていた活動ができず、自分たちと違う髪色の人、異なる言葉や文化などに直接触れる機会が減ってしまいました。子どもたちはテレビなどでは多様な人たちが活躍している姿を見ますが、自分たちの生活の場である園で直接会い、親しみをより深める貴重な機会と捉え、再開を模索しています。

「3密」対策ということで、園ではあらゆる対面・場面を見直してきました。それにより、多様な人との関わり機会が減少したことは、新型コロナウイルスの終息が見通せない中、今後の保育としてスタンダードになるのかもしれませんが、これは、我々保育者側も抱える課題です。

新型コロナウイルス対応として、保育の世界にもweb会議やオンライン研修が急速に広まってきました。便利な世の中になったと感心しながらも、どこかで議論が深まりづらいというもどかしさも抱えています。子どもたちにとって、対面する経験との差はなおさらです。アフターコロナの時代では引き続きweb対応が取られ、または進められる場面もあるかと思いますが、様々な交流により子どもたちが人間関係を広げて親しみをもち、人と関わる力を養っていただけるような環境を保障する努力が求められていると感じています。

		Q7 今年度養成校からの実習を受け入れましたか(予定も含む)。受入についての考えに最も近い項目を1つお選びください。						
		①コロナ対策を実施し、実習希望をすべて受け入れた						
		②コロナ対策を実施し、施設の方針に適合した場合のみ受け入れた						
		③コロナ関連の理由により受け入れない						
		④コロナ関連以外の理由で受け入れない						
		⑤実習受入の希望はなかった						
		⑥その他						
[比率の差n = 30 以上]								
全体		100.0(1763)	51.1	25.6	4.3	0.1	15.4	3.5
Q6 緊急事態宣言解除後の実習受け入れに関する新型コロナウイルス対応で該当する項目をお選びください。	養成校から実習中止の申し出があった	20.9(369)	47.2	29.3	9.2	0.0	10.6	3.8
	養成校から実習延期の申し出があった	28.7(506)	64.6	29.6	2.4	0.0	1.8	1.6
	養成校から実習内容変更の申し出があった	13.5(238)	58.4	37.0	1.7	0.0	1.3	1.7
	施設の判断により実習受入を中止した	6.9(121)	5.8	33.1	42.1	0.8	6.6	11.6
	施設の判断により実習延期をした	6.6(117)	37.6	50.4	5.1	0.0	0.9	6.0
	施設の判断により実習内容変更をした	5.9(104)	30.8	64.4	0.0	0.0	0.0	4.8
	保護者から実習を受け入れないで欲しいと要望があった	0.5(9)	22.2	66.7	11.1	0.0	0.0	0.0
	施設内職員から実習を受け入れないで欲しいと要望があった	0.9(16)	6.3	37.5	31.3	6.3	6.3	12.5
あてはまるものはない	45.8(808)	51.2	18.2	0.5	0.1	26.7	3.2	
Q10 新型コロナウイルス対応により、保育実習が中止となり代替授業へ変更されることについてどのように感じますか。	賛成	9.3(164)	36.0	22.6	18.9	0.0	19.5	3.0
	やや賛成	22.6(398)	37.2	30.2	5.8	0.3	21.6	5.0
	やや反対	38.3(675)	54.7	26.4	1.2	0.1	15.0	2.7
	反対	20.9(369)	67.2	21.4	0.8	0.0	9.5	1.1
	その他	8.9(157)	49.0	24.2	7.0	0.0	10.8	8.9

Q6の単純集計から、おおよそ半数の養成校から中止・延期・内容変更など何らかの申し出があったことがわかる(赤枠)。1人の実習生を受け入れることに対してでさえ保育施設側にとっては大きな困難であるが、その実習生を何十人、何百人と送り出す養成校においてはどれほどの課題が山積したのであるか？ コロナ感染拡大の状況においては、保育施設側が想像もつかないほどの難題だったように思う。

一方、保育施設側の対応として中止の決断をしたのは約5%と考えられる。

根拠としては、Q6の「施設の判断により実習受け入れを中止した」が6.9%、Q7の「コロナ関連の理由により受け入れない」が4.3%の結果による(青枠)。

調査部の当初の予想より少ない結果となったが、コロナ禍であっても学生に実習の機会を失わせたくないという保育施設の使命感が数字として表れた。

また、保育施設として実習を受け入れたい気持ちがあっても、保護者や職員から受け入れないでほしいとの要望があったことから、悩ましい状況だったことがわかる(赤セル)。

今後、予防ワクチンや治療薬など新型コロナウイルス感染症への対処方法が見つかるまでの間、実習受け入れに関して養成校における代替授業という選択肢も検討されているが、保育施設としては概ね賛成3割、反対6割という結果になった(緑枠)。

保育施設としてもぜひ実習は行ってほしいと願う意見の中にも、「感染リスク回避のためには仕方がない」という選択をする施設もあった(青点枠)。

		[比率の差n = 30以上] 全体 + 10% 全体 + 5% 全体 - 5% 全体 - 10%						
		数値の表示は%、()の数値はn数						
		Q9 Q7で「①・②」を選択された方にお尋ねします。 新型コロナウイルス対応として実習におけるICTの活用を行っている事例があればお選びください。						
		ICT活用の事例は特になし	子どもの様子や施設の様子をオンラインや動画や写真で提供	保育の振り返りをオンライン(webミーティング)で実施	保育の振り返りをSNS、メール等のやり取りで実施	養成校の指導者のフォローをオンライン(webミーティング)で実施	その他	
全体		(1,353)	92.8	4.1	0.7	0.7	0.6	3.0
Q8 Q7で「①・②」を選択された方にお尋ねします。新型コロナウイルス対応として、実施した項目をお選びください。	実習生の人数制限	25.1(340)	92.1	4.7	0.6	0.3	1.5	3.5
	実習生の健康管理強化	91.9(1243)	93.5	4.1	0.6	0.7	0.6	2.3
	実習生の実習前の外出自粛・外出確認	50.3(680)	93.2	4.3	0.4	0.7	0.6	2.4
	実習生の実習期間中の外出自粛・外出確認	43.4(587)	92.8	4.6	0.5	0.7	0.3	2.4
	園児との関わりを制限	3.7(50)	94.0	6.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	施設内職員との関わりを制限	1.3(17)	88.2	11.8	5.9	5.9	0.0	0.0
	園児の給食時における関わりを制限	14.0(189)	86.2	7.4	2.1	2.1	2.1	4.2
	実習内容の変更	5.7(77)	87.0	6.5	1.3	2.6	3.9	2.6
	実習日程の変更	8.9(121)	88.4	7.4	2.5	0.8	0.0	5.0
	実習期間の短縮	5.0(68)	95.6	1.5	1.5	0.0	0.0	2.9
実習時間の短縮	2.2(30)	86.7	10.0	6.7	3.3	0.0	3.3	
その他	7.0(95)	84.2	3.2	0.0	1.1	1.1	11.6	

Q9の結果から、実習におけるICTの活用事例は1割に満たなかった。しかし、後述するQ21の実習における課題として、実習生の負担削減を望む意見が多かったことから、今後のICT化に活路があるように思う。実際、わずかな差であるが、実習時間の短縮を行っている施設ではICT化実施率が上がっている(赤枠)。

この半年でオンライン飲み会などが流行語になるほど、急速に私たちの生活にICT化の波が押し寄せてきた。この流れを実習や普段の業務に活用することを想定した場合、実習生のような若者よりも、保育施設がどれだけ対応できるかが鍵になるのではないかと。ICT化やオンラインがすべてを解決するわけではないが、未来への投資として準備だけは怠らないようにしたい。

## 【コラム2 実習におけるICTの可能性】

新型コロナウイルス感染拡大が続く中で、養成校においても対面形式での授業ができなくなり、保育実習の延期や中止等、様々な課題に直面しています。そこで、その課題とどのように向き合い、問題解決に奮闘されているのか、対応関連情報からICTを導入した養成校の弾力的な取り組みにスポットをあててみました。

ICT活用の授業や保育実習についての事例は多くありませんが、学校と自宅をリモートでつなぎ、授業を行っている事例もあります。演習科目になると困難な部分も多く、時間割を変更すると講義形式に偏ってしまいがちですが、できるだけ一方通行の講義にならないように、チャットを活用したQ&Aの振り返りや指導者のフォローなど、工夫した授業を実践しています。また、保育園等への見学実習ができないため、園の施設紹介や活動内容について、園から情報提供を行い、動画や写真で代替授業を行う取り組みも見られます。

保育実習については、感染対策を行ったうえで受け入れを承諾している園もあれば、実習時期の延期や中止になる園もあり、実習生の不安につながっています。保育実習は学校の机上にはない生きた学びの場であると言っても過言ではないでしょう。こうした状況下で、保育実習をICT活用している園の取り組みを見てみると、それぞれの施設のソフトやハード部分を生かし、様々な創意工夫をしているようです。

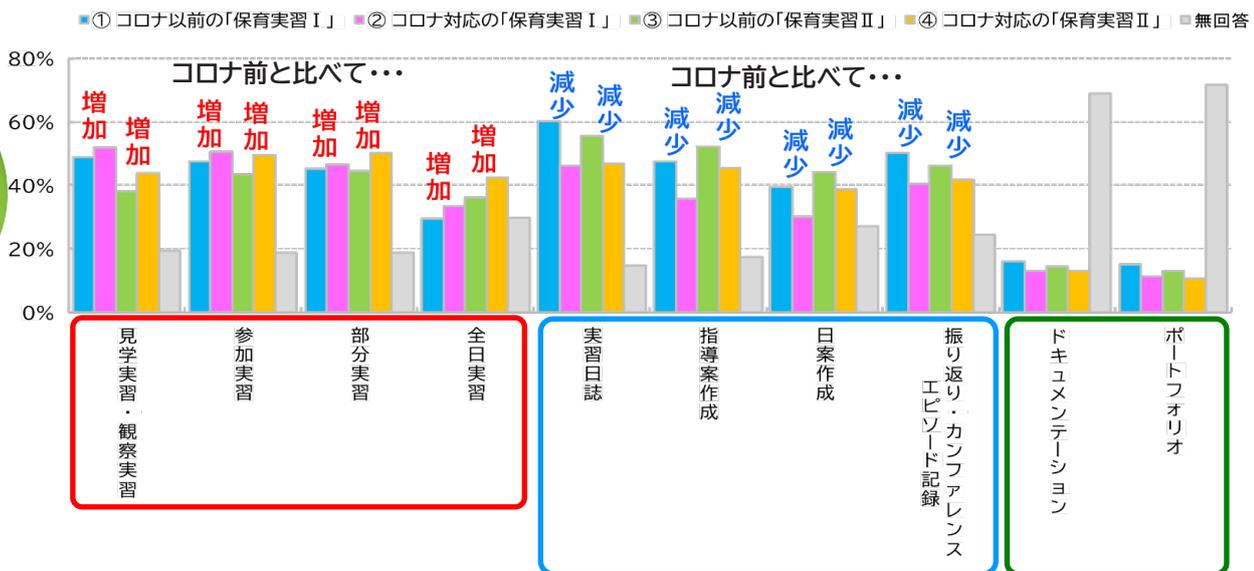
子どもの様子や保育者に関わる様子をオンラインや動画、写真等で発信し、数人ずつの形式で討議(グループディスカッション)を行ったり、リアルタイムで養成校と保育園等の現場をつないで演習的に実施したり、ICTを活用した保育実習も実践されています。

ICT を活用した授業や保育実習も可能ではありますが、すべての保育園等で実践が可能というわけではないでしょう。養成校 × 学生 × 実習受け入れ施設の三者が ICT 活用をいかにスムーズに学びへつなげていけるのか、そのために必要な技術と知識が必要となってくると思います。また、保育実習現場でなければ味わえない体感を ICT 活用でどこまで表現できるのか、そこも危惧する部分ではあります。

実際に ICT を活用し授業を行った学生から、メリットとデメリットの声があります。メリットとしては、自宅で授業が受けられることや周りを気にせず集中できる、デメリットとしては、表情がわからないので不安とか、学校と自宅という ON・OFF のスイッチの切り替えが難しい、また通信料が必要になるなど、授業を受ける側にも課題が見えてきています。

保育実習と ICT の可能性を考える時、やはり養成校 × 学生 × 実習受け入れ施設の三者の相互理解を図ったうえで連携し、未だ先の見えないこの状況下の中、with コロナで新たな学びのカタチを創意工夫しながら創造していかねばならないのかもしれないかもしれません。

## 考察④ コロナの前後における保育実習の変化



Q11 の結果から、コロナの前後における実習内容の変化を確認した。わずかな増減ではあるが、保育実習 I においても保育実習 II においても、実習については増加（赤字、赤枠）、日誌・指導案等の書類作成については減少となった（青字、青枠）。

この理由については強く確信を持ってないが、感染リスクに配慮し、担当する施設の職員との関わりを減らすために書類作成上の指導を減らしたのかもしれない。実際は、指導案を作成せずに責任実習はできないので、学生が自宅で独力により作成していることが考えられる。

まだ導入事例は少ないが、ドキュメンテーション、ポートフォリオを取り入れている施設があることを確認できた（緑枠）。振り返りのし易さ、学生と担当者、指導者との共通理解を深めやすい方法として、今後導入されるケースが増えるのではないかと予測する。

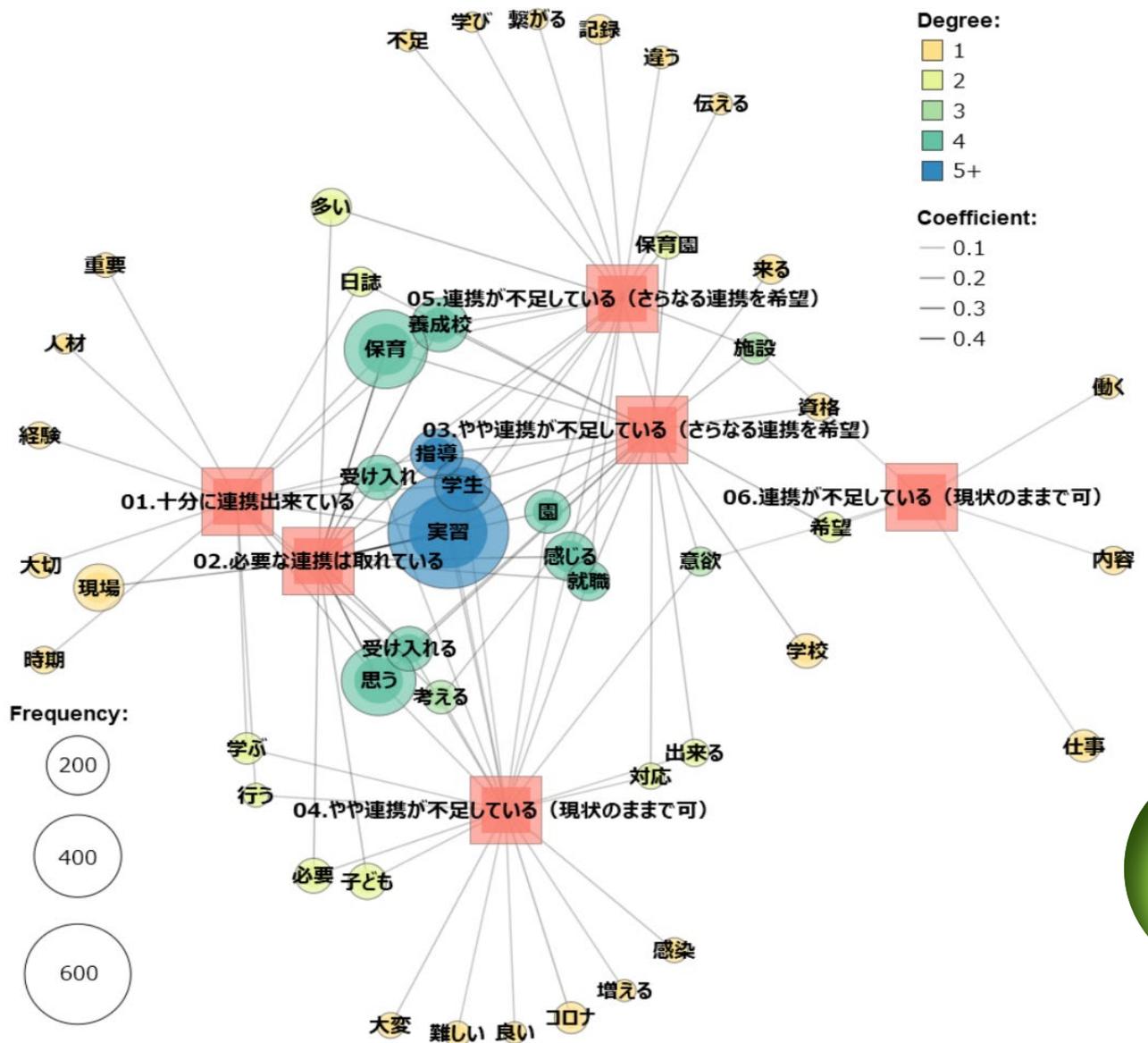


図 Q15の「養成校との連携」の結果を外部因子にした、Q21の自由記述（実習受け入れについての課題や要望）の共起ネットワーク

### 【コラム3 調査の考察手法】

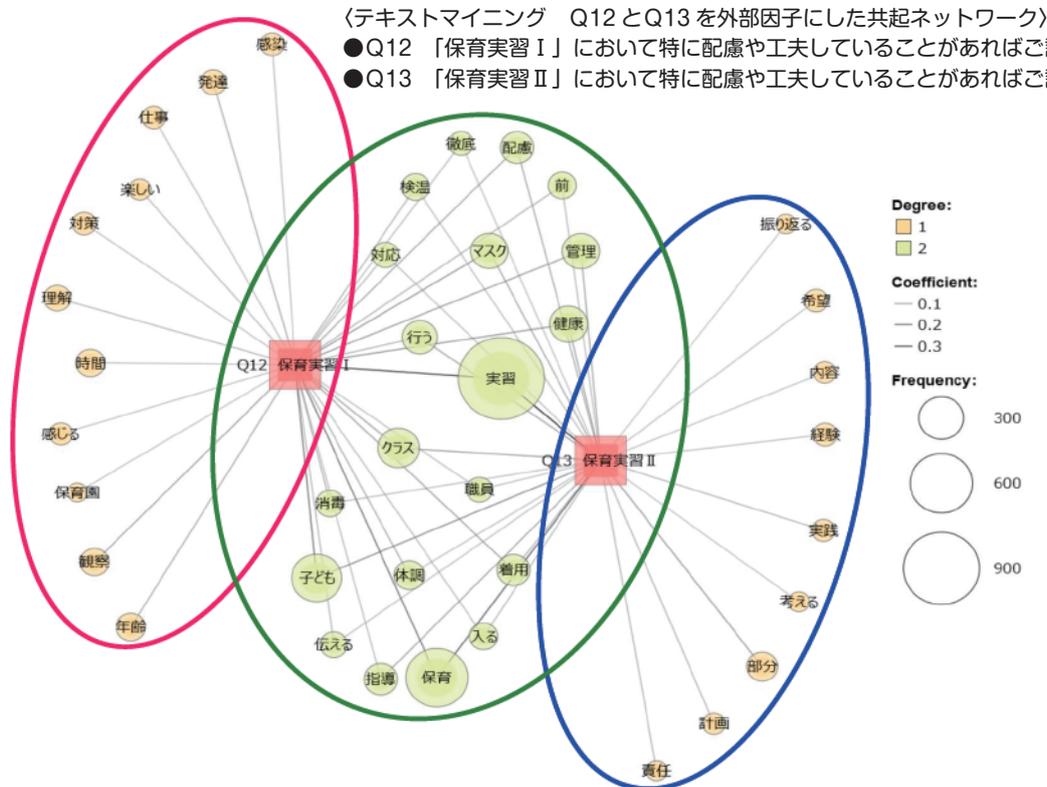
自由記述の考察において用いているテキストマイニングは、他の調査項目との関連を見ることでさらに理解を深めることができ、イメージでは自由記述におけるクロス集計のようなものです。

上図は、Q21の自由記述をテキストマイニングする際に、Q15の「養成校との連携」での結果を外部因子に用いた共起ネットワークです。自由記述をすべて読み込まなくても、保育の現場を知っている人が見れば、語と語のつながりにイメージが湧いてきます。

皆さんにはどのように見えますでしょうか？

## 保育実習Ⅰと保育実習Ⅱにおける 配慮と工夫(自由記述)

ここでは、Q12、Q13の自由記述からテキストマイニング(共起ネットワーク)を使用し、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱそれぞれの配慮や工夫、保育実習Ⅰ・Ⅱに共通して行っている配慮や工夫を分析した。



「保育実習Ⅰ」については、養成校の学生にとって初めての経験であることから、事前説明をきめ細やかに行い、実習担当者に若手職員を起用するなど、実習園としての配慮が特徴的に見られた。まずは、保育の仕事を理解してほしい、現場の楽しさを感じてほしいという意向が実習日程などの工夫にも表れていた(赤枠)。

「保育実習Ⅱ」については、当然のことながら「保育実習Ⅰ」を踏まえた位置づけからの配慮・工夫が多く、現場職員との振り返りを行ったり、計画に基づいた実習への展開が図られ、より実践的な傾向が見られた。ただ、そのような内容の展開も、単純な難化ではなく、保育の仕事への希望を持って実習を終えてほしいという実習園の切なる願いが込められている(青枠)。

「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」に共通する部分としては、園児一人ひとりをよく見てほしいという、子どもたちとの関わり方に関する記述が多く見られた。たまたま、新型コロナウイルス対応として、子どもたちの細やかな健康チェックがより日常的になったが、保育者の資質として、子どもたちを見る目を養う、その視点を適切かつ正確にする学びが、「保育実習」の受け入れにおいて求められていることがわかる(緑枠)。

\*追加説明/今回の調査のQ12以降の設問では、保育実習全般についての回答を求める内容だったが、前問までの流れから新型コロナウイルス対応についての記述も多く含まれていた。テキストマイニングによる分析については、新型コロナウイルス対応の部分も含めて行っていることを申し添える。

## 〈Q12 保育実習Ⅰ 自由記述 10選〉

### 1 学校の方針とのすり合わせ

各種学校が、実習園の対応を重んじる場合と、独自（学校主体）での場合があるために学生さんが、戸惑わないよう対応している。

### 2 事前オリエンテーション

事前にオリエンテーションを行い、実習を希望するクラスに配属するようにしている。特に希望がなければ子どもの発達を捉えてもらいたいので、全クラスで実習してもらおう。

### 3 不安の払拭

実習生の期待や希望を支えられるような援助をしていきたいと考えている。不安が大きいのと思うので、丁寧に気持ちや思いを聞き取ってほしいと思う。

### 4 実習担当職員

実習生の担当職員は経験年数2～3年目の若手保育者が行う。疑問を共有することで、一緒に子どもを通して考え合うことを学んでいけるようしている。毎日担当者と振り返りを行っている（実習時間内）。休憩時間以外に実習日誌や記録を書く時間を設けている（ノンコンタクトタイム）。

### 5 年齢ごとの違いを捉えられる内容

0歳児から順に5歳児まで実習してもらおうようにして、各年齢の発達段階や成長していく姿を大まかにでも捉えてもらうようにしている。

### 6 実習内容の対応

1つのクラスで、2週間を通して基本的に同じ保育士が指導をし、現場の考え方を伝える。希望に沿って早朝保育・延長保育・土曜保育・部分実習を行っている。

### 7 毎日の振り返り

初めての实習のため、毎日の振り返りの中で、丁寧にわからないことや質問に応じて進めている。

### 8 記録の効率化

保育時間を1時間短縮して、実習記録を書く時間を、各自持ち帰って書いてもらう。

### 9 楽しさの実感

保育業務の大変さよりも、まずは楽しさを感じてもらえるように心がけている。

### 10 保育士への希望

保育職に希望が持てるように配慮しつつ、現場の厳しさも経験していただき、そのうえで、自分の人生として保育士になるかどうか選択してもらえようとの思いで実習を受入れさせていただいている。

## 〈Q13 保育実習Ⅱ 自由記述 10選〉

### 1 実習Ⅰとの比較

2回目の実習生が多いので、1回目からの成長した部分を評価するようにしている。

### 2 学びたい内容

学生が学びたい内容を理解して環境を用意することと、保育の楽しさややりがいを感じられるよう、学生の気持ちに寄り添って実習が充実したものになるよう配慮している。

### 3 得意なことを活かす

実習生の得意なことを聞き、それを活かした実習ができるような環境設定の援助をし、少しでも自信につながるように配慮している。

### 4 より深い学び

実習期間を1つのクラスに入り、クラス運営や生活の援助、責任実習を通して、子どもとの関わりをより深く学んでもらえるようにしている。

### 5 記録、計画の実践

日々の日誌の書き方や部分実習、責任実習に関しての指導計画を余裕を持って提出して、指導できるように配慮する。

### 6 責任実習

責任部分実習立案での本人計画案を尊重し、アドバイス等を行い、良き終了を目指す。実習全体で将来像がイメージでき目標なるよう、丁寧に指導を心がける。

### 7 記録の視点

多様な保育内容に参加して、乳幼児の発達に即した保育内容の計画・実践・評価反省を経験してもらう。記録は、1日の流れを記録するのではなく、項目を絞って記録する。

### 8 アドバイス

様々な状況をシミュレーションしながら、場面場面での必要な配慮は何か等、十分な考察を行い、実践できるように手本を示したり、アドバイスができるようにしている。

### 9 失敗からの学び

「実習生だから大丈夫。失敗したことが学びになるから何度でも挑戦してほしい」旨を担当実習を行う前に伝え、「上手にやらずにはいけない」という気負いを持たずに責任実習ができるように心がけている。

### 10 現場での力

保育現場で重要視される力について、わかりやすい説明指導を心がけている。立案経験、チーム保育、言語による表現力・口頭でのミーティング（振り返り）の実施、など。

## 考察⑥

# 実習における養成校や学生との連携

Q14、Q15 では、養成校との連携の状況を確認した。

Q14 の結果から、主な連携の機会は以下の3つが主に行われている。

- ① 養成校との指導者と電話での打合せ（4割）〈赤枠〉
- ② 実習生との訪問による事前打ち合わせ（6割）〈青枠〉
- ③ 実習中に養成校の指導者が施設訪問によるフォロー（6割）〈緑枠〉

		Q14 実習の受入に際し、養成校との連携状況について実施されている項目をお選びください。							
		養成校の指導者と施設訪問による事前の打ち合わせ(実習内容の確認など)	養成校の指導者と電話、web上での事前の打ち合わせ(実習内容の確認など)	養成校の実習生と施設訪問による事前の打ち合わせ(実習内容の確認など)	養成校の実習生と電話、web上での事前の打ち合わせ(実習内容の確認など)	養成校の指導者が実習期間中に施設訪問による実習生へのフォロー	養成校の指導者が実習期間中に電話による実習生へのフォロー	あてはまるものはない	
全体		21.6	38.7	63.3	22.1	63.1	16.8	7.7	
Q15 Q14を踏まえ、実習受入に関する養成校との連携について感じている項目をお選びください。	十分に連携出来ている	9.7(171)	40.4	47.4	66.1	21.6	69.0	11.1	2.3
	必要な連携は取れている	65.4(1153)	22.3	42.0	68.3	24.1	67.4	18.6	3.5
	やや連携が不足している(さらなる連携を希望)	12.6(222)	14.9	33.3	59.5	21.6	59.5	17.1	8.6
	やや連携が不足している(現状のまま可)	6.0(105)	13.3	20.0	52.4	14.3	50.5	18.1	17.1
	連携が不足している(さらなる連携を希望)	5.1(90)	8.9	24.4	28.9	11.1	36.7	6.7	40.0
	連携が不足している(現状のまま可)	1.2(22)	0.0	4.5	13.6	4.5	0.0	0.0	81.8

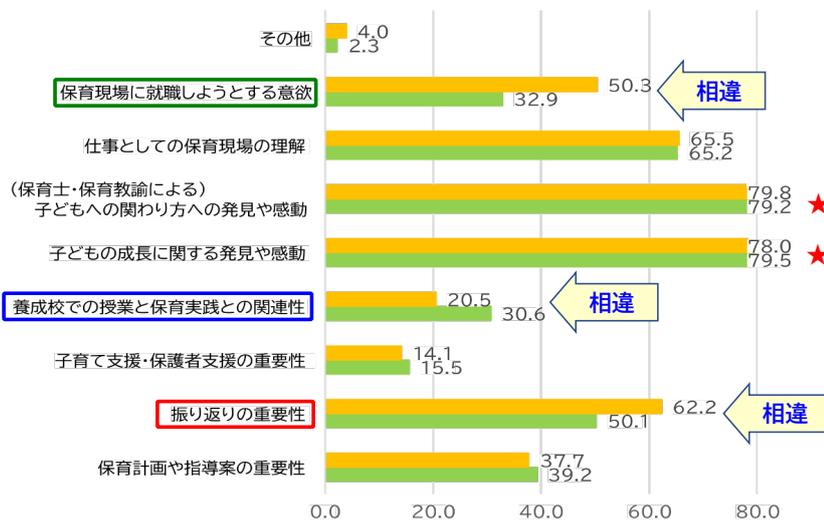
またQ15の結果から、保育施設の7割以上が養成校との連携が取れていると認識している（茶色枠）。

Q14 とのクロス集計においても、訪問や電話での連携が減るにつれて不足感が増大しているのがわかる。連携不足に起因することで最も避けたいのは実習の内容低下である。せっかくの実習期間が有意義になるよう、学生、養成校、保育施設の三者のコミュニケーションを高めていきたい。

## 考察⑦

# 実習において重視していること

Q16 とQ17 では、回答項目をあえて同じものを設定し、施設の考えと実習生の様子との相違を検討してみた。ただし、実習生の様子については施設側からの判断であるため、実際に実習生がどの項目を学んでいるかという裏づけは取れていないことを踏まえて考察を行う。



■ Q16 貴施設において、実習の受け入れや指導で重視している項目をお選びください。

■ Q17 実習生が実習を通じて学んでいる(感じている)と思うことを下記の項目からお選びください。

回答している施設で行われている実習であるため、ほぼ同じような結果が得られた。保育現場での発見や感動を大切にしてほしいと考える施設が多く（約8割）、この思いをぜひ実習生の皆さんへ伝えたい（★印）。また、以下の3項目においては10ポイント以上の相違が見られた。

① 振り返りの重要性（赤枠）

保育が毎日の繰り返しの積み重ねであることを伝えたい施設と、目の前の課題である実習を何とか終えたい実習生との思いの差と考える。

② 養成校での授業と保育実践との関連性（青枠）

授業と実践の関連性を確かめながら過ごす実習生に対し、施設側の実践主義、理論からの遠ざかりが差の要因と考える。

③ 保育現場に就職しようとする意欲（緑枠）

この項目での差が最も大きかった。保育士不足に拍車がかかっている現況を表しているのか、少しでも多くの人材が保育の世界に就職してほしいという施設と、就職は資格を取得した後のことと考える実習生との差が表れている。

どの差においても、どちらかが何かを改善するというよりは立場が違えば考えも変わるものとして、お互いの相互理解の一考にしてもらいたい。相手の立場に寄り添う気持ちが大切である。

考察⑧

保育実習の今後

保育士資格における保育実習や就職前に現場を知るといった意味の保育実習は今後どのようにあるべきかという興味から、Q18とQ19の結果とそのクロス集計から考察を行う。

Q18では、現在国家試験による保育士の資格取得に保育実習が含まれていないことについて、8割以上が必修化を望んでいることがわかる（赤枠）。

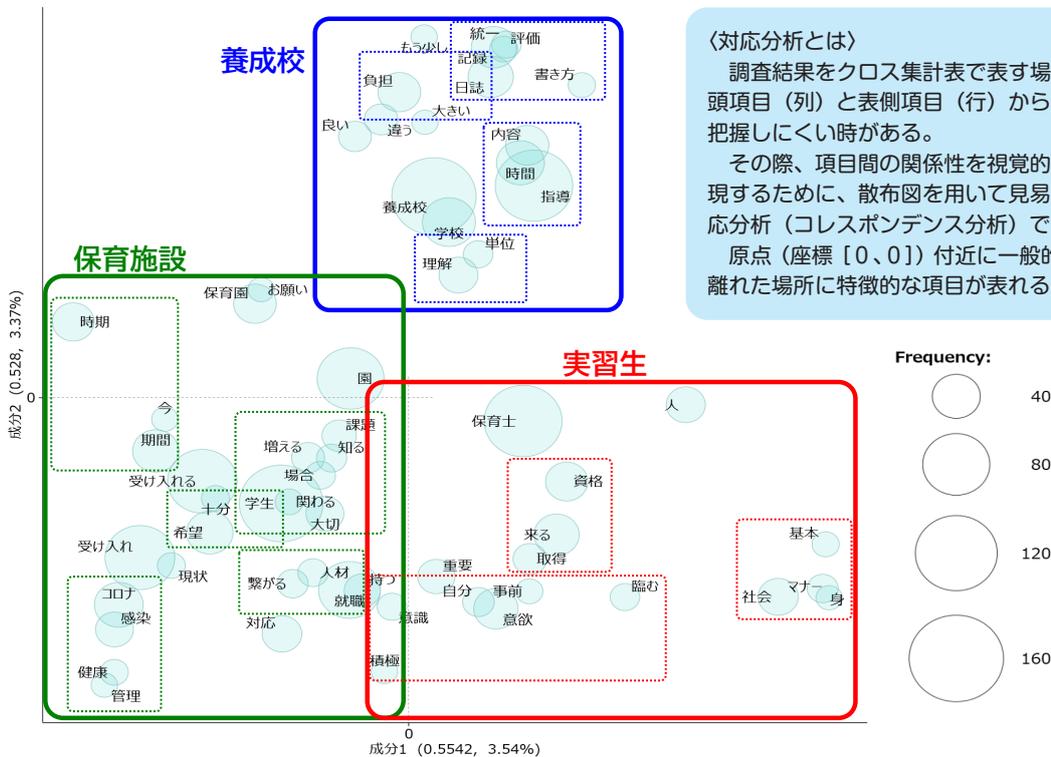
またQ19の結果から、保育現場で働くうえでの実習の必要性を98%の施設が感じていることが明らかになった（青枠）。

クロス集計の結果からは、国家試験での必修化と更なる内容充実を要望する意見と、実習の意義は理解しつつも施設と学生の負担を考慮し、現状のままで構わないという意見の2つのピークがあることがわかる（紫セル）。

		[比率の差n = 30以上]		Q18 保育士の国家試験で保育実習が含まれないことについて、どのように思いますか。					
		全体+10%	全体+5%	全体-5%	全体-10%	保育実習を必修にするべき	できれば保育実習を加えて欲しい	現状のままでよい(保育実習なし)	その他
		数値の表示は%、()の数値はn数							
全体		(1,763)	33.0	48.1	16.2	2.7			
Q19 保育士資格における保育実習は保育現場で働く上でどのくらい重要とお考えですか。	とても重要(実習内容をもっと充実して欲しい)	33.7(595)	59.0	33.1	6.7	1.2			
	とても重要(実習内容は現状のままで可)	42.2(744)	28.0	54.0	15.2	2.8			
	出来れば経験して欲しい	22.8(402)	5.7	61.7	27.9	4.7			
	特に重要とは思わない	1.1(19)	0.0	5.3	94.7	0.0			
	実習はなくてもよい	0.2(3)	0.0	0.0	100.0	0.0			

## 実習受け入れにおける課題と要望（自由記述）

ここでは、Q21 の自由記述からテキストマイニング（対応分析）を使用し、実習受け入れにおける課題と要望を分析した。



自由記述の内容は、おおまかに以下の3つに分けられた。

- ① 実習生（赤枠）、② 養成校（青枠）、③ 保育施設（緑枠）

実習生については、挨拶やハウレンソウ（報告、連絡、相談）など、社会人としてのマナーを身につけてほしい、保育士としてのスキルよりも、実習に臨むに際しての意欲や積極性、意識の高さを望む記述が多かった。この部分が不足していると「資格を取得するためだけの実習では？」と感じることになり、保育施設としても実習の負担感が増す要因になっているようだ。

養成校については、実習生にとっても保育施設にとっても、日誌や記録の作成とその指導への負担が大きいと記述が多く、様式の簡略化や統一を望んでいる。実習の評価についても同様だった。大学のカリキュラム上難しいとは思いますが、実習を単位とは別に子ども理解の場として位置づけ、実習生がリラックスして臨むほうが有意義な内容になるのではないかという意見もあった。

一方、保育施設では、受け入れの時期について行事等での繁忙期には十分な対応を取れない場合があり、現場の忙しい雰囲気だけが実習生に伝わることを危惧している。また、学生の希望に添った実習にしたいという思いと、実習生に関わる職員の負担軽減と指導力向上が課題としてあがっている。これに関しては、保育施設の個別または組織の取り組みによって解消できる可能性があると思われるので、研修テーマの1つとして考えたい。

最後に、実習の内容とは別の視点になるが、実習受け入れの負担が大きい分だけに、できればその実習受け入れの負担が大きい分だけに、できればその実習受け入れが就職につながってほしいという要望が多く、今日の保育施設の本音が表れていた。

## 〈Q21 実習受け入れについての課題や要望 自由記述 10選〉

### 1 指導力アップ

他の専門職（国家資格）で既に実施しているように、実習指導者に研修等で資格を与え、実習指導に当たる者の資格要件（研修受講済）等を整備し、指導レベルの統一・底上げを図ってほしい。

### 2 対応が難しい

初めから上手くできるわけがないのに、できないから向いていないのではないかと実習でイヤになってしまわないように、とても気を使って受け入れているつもりだが、学生の弱さが年追うごとに気になる。若い芽をどのようにすれば大きく育てることができるのか、とても難しい。

### 3 現場の余裕

保育現場に余裕がなければ受け入れ自体が難しく、現場でいろいろなことを伝えたいと思っても、現場が慌ただしいと伝えるタイミングを逃してしまうという状況はあると思う。また、その状況を見た実習生が、保育士を仕事にする意欲を失ってしまうのではないかと懸念もある。実習生が保育実習を通して、保育士は大変だけど、やりがいがある仕事だと感じてくれれば、実習を受け入れる側としても非常に嬉しい。そのためには、やはり時間的・人数的余裕は必要だと感じる。

### 4 現場の努力

実習を受け入れることが重荷になっている事実は確かにあるが、保育者を育てることは現場の人間にとっても死活問題であることもまた事実。養成校に任せるだけでなく、現場の我々も共に保育者を育てている、育てていくという意識を持たないといけないと考えている。専門性の伝達は、言葉だけでなく、見て知る、理解する部分も多く、実際にやってみること以上の学びはないと思う。そういった意味でも、実習の在り方はより重要視されるべきだと考えている。よりよい実習体験をするためには、現場の努力あってこそ。その努力こそ、保育をよりよいものにしていくことにもつながっていくと考えている。

### 5 オンライン

今年度は学校の授業もオンラインが主で、直接先生の講義を受けたり、友だち仲間と学び合い・語り合う時間がほとんどないと聞いている。保育は子どもや保護者に直接関わり合うコミュニケーション労働。コロナ禍で難しいと思うが、保育実習の場だけでなく、学校でも豊かな人間関係を育み築きながら「実習」していただきたいと願う。

### 6 実習の見える化

当園のホームページには実習体験談を掲載しているが、全国の実習生が「保育実習 体験談」で検索をしているようで、非常に多くのアクセスがある。もう少し実習が見える化して、気軽にできるものになるとよいと思う。

### 7 感動・発見を大事に

実習日誌に追われる学生さんを見ると、そこまで求めるべきものなのかと疑問に思う。日誌を書くためにメモするよりは、一瞬の感動や日々の発見を大事にしてほしい。

### 8 ゆっくり育てる

一般の企業では、入社後の研修を重視している。保育士においても、就職後いきなり担任になるのではなく、見習いとして給料をもらいながら学習・実習ができる体制が作れるよう、補助金を見直していただきたい。

### 9 ゆっくり学ぶ

実習の重要性を感じている。単位習得目的の意味合いの強い短期的ものでなく、もう少し長期的に保育を学べるものになればよいと感じている。長期的に学校（知識、学問）と現場（実践）を平行して保育を学べるシステム制度が整うことを希望する。

### 10 コロナリスク

コロナ禍での実習生受け入れにあたり、リスク不安を感じる。養成校の指導や本人の感染予防対策意識が高くても家族や友人との接触等で感染する可能性があり、万が一実習生からコロナウイルス感染者が出て園を閉園することになると、保護者や園児が困ることになる。1日も早く予防ワクチンが開発され、皆が接種し、安心して実習生を受け入れられるようになってほしい。

## まとめ コロナ禍で見た課題を今後の糧に

私たちの生活様式は、大きな変化を余儀なくされました。今までに体験したことがない出来事や、園生活で当たり前に行っていた行事など、日常の様々な事象でさえ改めて考えさせられるよい契機であるようにも思います。

前回の調査（『新型コロナウイルス感染症に関する調査2—第1波感染期間を振り返る』[2020年7月・報告書]）で触れた行事などの在り方に関し、従来の内容を継続していく素晴らしさもありますが、自園の行事の在り方や思い切って見直すよいチャンスと捉えるか、伝統として捉えて継続すべきという選択肢を取るかについては、それぞれの園の価値観により千差万別であろうかと思えます。

多様な時代、新たに直面した諸問題の解決に取り組まれている各園の皆様方におかれましては、これまでの価値観を振り返りながら前向きな対話となることを願うばかりです。しかしながら、感染者が出た際は一連の対応に追われ、目の前のことを処理し解決していくことで精一杯になることは容易に想像できます。

新しい生活様式の中で実習の受け入れについても心配な要素が多くありますが、養成校と保育現場でそれぞれが対策を講じて努力をすれば、実習生の受け入れが十分可能であることを、今回の調査結果は示しています。

保育所保育指針の総則に「子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場でなければならない。」と記されています。この「子どもの最善の利益」について各自が想いを馳せながら、保育現場で取り組まれているらっしゃることと思われまます。

それを担う保育士の卵は、養成校での学びや実習を通して「座学と実学を往還」しながら一人前の保育士としてデビューします。学生にとって、今回のコロナ禍で想定外であったのは養成校の対応だったのではないのでしょうか。学校によっては未だ大学生はオンライン授業が主で、対面授業は数少ない状況と聞きます。保育という仕事は、実際に人と相対す

るリモートでは行えない業務です。この状況で保育士を目指す学生にとって、これほど不安な心境で保育実習に臨むことになるとは夢にも思っていなかったのではないのでしょうか。

今回の調査結果は、それほど驚くような結果とはなっておらず、実習の受け入れも約半数以上の園がいつも通りに受け入れを行っているようです。保育士不足に悩まされているという状況が認識されている一方、保育士を目指す学生を私たちも育てていきたいと思う気持ちが混在しているわけです。調査結果から見ると、勿論、感染率が高い地域では状況によって受け入れをお断りされた園もあろうかと思いますが、養成校との関係性や断る際のリスク（人材確保の点）を考えると苦渋の決断であったのではないかと推察できます。

私の園では、養成校と十分な協議のうえ、実習生の受け入れを行いました。実習初日の挨拶の際に、学生から「大変な時期に実習を引き受けていただきありがとうございます」と言われました。何か切ないというか学生も不安なのだろうと感じとれる言葉でした。実習経験から子どもとの関わりや新たな体験をしてほしいと願いながら、「こちらこそ実習に来てくれてありがとう！しっかり学んでね」という思いにかられました。実習を引き受ける者として、現場で一人前に活躍できるように実習にあたる園も担当職員も実習生としっかり向き合っていないと保育環境は充実していかないと思いつつ、実習の在り方を深く検討する必要性を感じています。

2020年11月24日現在、第3波と言われるコロナ感染拡大が広がり、全国各地で新規感染者数過去最高を更新する毎日です。気温などの時期的なものなのか、人の移動によるものなのか、理由が明らかではありませんが、私たちの生活にまた一步コロナが近づいてきました。「目の前の現実か？ 今後の未来か？」に揺れる状況ではありますが、切れ目のない人材育成を願い、実践する多くの保育施設の気概を確認できたことを記し、この報告書の結びといたします。

### \* 考察担当

- ① 和歌山市・のざき保育園 小川幸伸
- ②③④ 山形県・子供の城保育園 齊藤 勝
- ⑤ 岐阜県・市橋保育園 鷹橋賢淳
- ⑥⑦⑧⑨ 山形県・子供の城保育園 齊藤 勝

### \* コラム担当

- 1 長崎県・認定こども園島地シティ夜間保育園 桑原静香
- 2 徳島県・とくしま健祥会保育所 田中育美
- 3 山形県・子供の城保育園 齊藤 勝

### \* まとめ担当

千葉県・音のゆりかご保育園 久居麻紀子

## 調査項目

### 新型コロナウイルス対応から考察する「保育実習」に関する調査

- Q1. ご回答頂いている方の施設がある都道府県をお答えください。
- Q2. ご回答頂いている方の施設の法人格をお答えください。  
社会福祉法人 学校法人 宗教法人 NPO法人 株式会社  
有限会社 個人 一般財団法人 公益財団法人 一般社団法人  
公益社団法人 医療法人 その他
- Q3. ご回答頂いている方の施設の施設種別をお答えください。  
保育所 幼保連携型認定こども園 保育所型認定こども園  
地域裁量型認定こども園 幼稚園型認定こども園  
小規模保育 A 小規模保育 B その他
- Q4. ご回答頂いている方の役職をお答えください。  
理事長 理事 園長 副園長 主任保育士・主幹保育教諭 その他
- Q5. 今現在の新型コロナウイルス対応として外部の方(職員、園児以外の人物)の施設への立ち入りについて、方針を教えてください。(最も近い状況を1つ選択)  
 <選択肢>  
 [1]制限無し(コロナ以前と同様) [2]エリアを限定して立ち入り可能  
 [3]玄関先での対応 [4]インターホンでのみ対応(立ち入り不可)  
 [5]web上での対応 [6]①～⑤以外での制限実施  
 [7]設問対象となる人物はいない  
園児の保護者 ボランティア 施設見学希望者  
職場体験の中小高の生徒 外部講師 納入業者
- Q6. 緊急事態宣言解除後の実習受け入れに関する新型コロナウイルス対応で該当する項目をお選びください。【複数回答可】  
養成校から実習中止の申し出があった  
養成校から実習延期の申し出があった  
養成校から実習内容変更の申し出があった  
施設の判断により実習受入を中止した  
施設の判断により実習延期をした  
施設の判断により実習内容変更をした  
保護者から実習を受け入れないで欲しいと要望があった  
施設内職員から実習を受け入れないで欲しいと要望があった  
あてはまるものはない

Q7. 今年度養成校からの実習を受け入れれましたか(予定も含む)。受入についての考えに最も近い項目を1つお選びください。

- ①コロナ対策を実施し、実習希望をすべて受け入れた  
②コロナ対策を実施し、施設の方針に適合した場合のみ受け入れた  
③コロナ関連の理由により受け入れない  
④コロナ関連以外の理由で受け入れない  
⑤実習受入の希望はなかった  
⑥その他(自由記述)

◆Q7で「①・②」を選択した場合→Q8・Q9へ/Q7で「③・④・⑤・⑥」を選択した場合→Q10へ

Q8. 新型コロナウイルス対応として、実施した項目をお選びください。【複数回答可】

- 実習生の人数制限 実習生の健康管理強化  
実習生の実習前の外出自粛・外出確認  
実習生の実習期間の外出自粛・外出確認  
園児との関わりを制限 施設内職員との関わりを制限  
園児の給食時における関わりを制限 実習内容の変更  
実習日程の変更 実習期間の短縮  
実習時間の短縮 その他(自由記述)

Q9. 新型コロナウイルス対応として実習におけるICTの活用を行っている事例があればお選びください。【複数回答可】

- ICT活用の事例は特にない  
子どもの様子や施設の様子をオンラインや動画や写真で提供  
保育の振り返りをオンライン(webミーティング)で実施  
保育の振り返りをSNS、メール等のやり取りで実施  
養成校の指導者のフォローをオンライン(webミーティング)で実施  
その他(自由記述)

Q10. 新型コロナウイルス対応により、保育実習が中止となり代替授業へ変更されることについてどのように感じますか。

- 賛成 やや賛成 やや反対 反対 その他

Q11. 「保育実習Ⅰ」と「保育実習Ⅱ」において実施している項目をお選びください。【複数回答可】

- <選択肢>  
 [1]コロナ以前の「保育実習Ⅰ」 [2]コロナ対応の「保育実習Ⅰ」  
 [3]コロナ以前の「保育実習Ⅱ」 [4]コロナ対応の「保育実習Ⅱ」

- ①見学実習・観察実習 ②参加実習 ③部分実習 ④全日実習 ⑤実習日誌  
⑥指導案作成 ⑦日案作成 ⑧振り返り・カンファレンス ⑨エピソード記録  
⑩ドキュメンテーション ⑪ポートフォリオ

◆Q12以降の設問は保育実習全般についてのご回答をお願いします。

Q12. 「保育実習Ⅰ」において特に配慮や工夫していることがあればご記入ください。(自由記述)

Q13. 「保育実習Ⅱ」において特に配慮や工夫していることがあればご記入ください。(自由記述)

Q14. 実習の受入に際し、養成校との連携状況について実施されている項目をお選びください。【複数回答可】

- 養成校の指導者と施設訪問による事前の打ち合わせ(実習内容の確認など)  
養成校の指導者と電話、web上での事前の打ち合わせ(実習内容の確認など)  
養成校の実習生と施設訪問による事前の打ち合わせ(実習内容の確認など)  
養成校の実習生と電話、web上での事前の打ち合わせ(実習内容の確認など)  
養成校の指導者が実習期間中に施設訪問による実習生へのフォロー  
養成校の指導者が実習期間中に電話による実習生へのフォロー  
あてはまるものはない

Q15. Q14を踏まえ、実習受入に関する養成校との連携について感じている項目を1つお選びください。

- 十分に連携出来ている  
必要な連携は取れている  
やや連携が不足している(さらなる連携を希望)  
やや連携が不足している(現状のままで可)  
連携が不足している(さらなる連携を希望)  
連携が不足している(現状のままで可)

Q16. 貴施設において、実習の受け入れや指導で重視している項目をお選びください。【複数回答可】

- 保育計画や指導案の重要性  
振り返りの重要性  
子育て支援・保護者支援の重要性  
養成校での授業と保育実践との関連性  
子どもの成長に関する発見や感動  
保育士・保育教諭による子どもへの関わり方への発見や感動  
仕事としての保育現場の理解

- 保育現場に就職しようとする意欲  
その他(自由記述)

Q17. 実習生が実習を通じて学んでいる(感じている)と思うことを下記の項目からお選びください。【複数回答可】

- 保育計画や指導案の重要性  
振り返りの重要性  
子育て支援・保護者支援の重要性  
養成校での授業と保育実践との関連性  
子どもの成長に関する発見や感動  
保育士・保育教諭による子どもへの関わり方への発見や感動  
仕事としての保育現場の理解  
保育現場に就職しようとする意欲  
その他(自由記述)

Q18. 保育士の国家試験で保育実習が含まれないことについて、どのように思いますか。

- 保育実習を必修にするべき  
できれば保育実習を加えて欲しい  
現状のままでよい(保育実習なし)  
その他(自由記述)

Q19. 保育士資格における保育実習は保育現場で働く上でどのくらい重要とお考えですか。

- とても重要(実習内容をもっと充実して欲しい)  
とても重要(実習内容は現状のままで可)  
出来れば経験して欲しい  
特に重要とは思わない  
実習はなくてもよい

Q20. 実習生の養成以外で保育実習が果たしている役割があれば該当する項目をお選びください。【複数回答可】

- 施設の保育の質の向上  
 (実習を受け入れることで保育内容の見直し、人材育成力向上など)  
養成校(実習生含む)との就職等での関係強化  
該当する項目はない  
その他(自由記述)

Q21. 実習受入について、課題や要望などありましたらご記入ください。(自由記述)

\* 本報告書に関するご意見、ご感想、お問合せ等は、  
下記の全私保連調査部へお寄せくださいませ。



「保育通信」2021年1月号 No.790 付録  
新型コロナウイルス対応から考察する「保育実習」に関する調査

2021年1月1日発行

編者 公益社団法人 全国私立保育園連盟 調査部  
調査部長 齊藤 勝 (山形県・子供の城保育園)  
調査副部長 鷹橋 賢淳 (岐阜県・市橋保育園)  
調査部員 小川 幸伸 (和歌山市・のざき保育園)  
調査部員 久居麻紀子 (千葉県・音のゆりかご保育園)  
調査部員 田中 育美 (徳島県・とくしま健祥会保育所)  
調査部員 桑原 静香 (長崎県・認定こども園島地シテイ  
夜間保育園)

発行所 公益社団法人 全国私立保育園連盟  
〒111-0051  
東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館  
TEL 03-3865-3880 FAX 03-3865-3879  
URL : <http://www.zenshihoren.or.jp/>  
E-mail : [ans@zenshihoren.or.jp](mailto:ans@zenshihoren.or.jp)

デザイン 有限会社タモン  
印刷・製本 株式会社光陽メディア

© Kouekishadanhoujin Zenkokushirtsuhoikuenrenmei 2021 Printed in Japan  
落丁・乱丁本は本会事務局へご連絡ください。  
送料本会負担にてお取り替えいたします。